

## 2019年度 学校自己評価表

Osaka YMCA International School

2019年12月

### I 学校教育目標

- 1、本校は、英語を教育言語とする国際教育の必要性を有する生徒たちに、家庭と連携して適切な教育を提供するものである。
- 2、本校は、グローバルな視野を育むための包括的な教育課程を提供する。  
また、生徒たちが、教育活動において意欲的であることと、自らの学びと行動に対して責任意識を持つことを目標とする。

### II 重点目標

- 1、国際バカロレア機関のIB-MYP（7-10年生）、DP（11、12年生）候補校としてスムーズな認証のために十分な準備をする。また、幼稚部・小学部のIB・PYPカリキュラムの実施状況を精査・改善する。
- 2、生徒支援一般、また特別な生徒対応を充実させる。
- 3、IB校として、より望ましい教育効果を上げるための教育環境・施設・機器／設備の充実を進める。
- 4、保護者とのコミュニケーションを密にしながら支持・支援をつなぐことと併せ、広汎かつ効果的な学校広報の確立をはかる。

### III 個別目標と評価

※ 評価基準 1 = 不十分 2 = 部分達成 3 = 達成

領域	評価項目	評価	達成状況	今後の改善
カリキュラム ・学習指導	・中等部 IB - MYP 候補校申請と高等部 (IB - DP) の開講準備	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2020年8月にIB・DP校としての高等部開始に向け正式候補校として準備を進め、人的体制はほぼ完成した。</li> <li>・2021年8月を目途に中等部をIB・MYP校となるための正式な候補校となることが出来た（本年6月）。</li> <li>・Western Japan Activities Association (WJAA)に加盟し他インター校と様々なスポーツ交流を実施し、放課後のクラブ活動を充実させることが出来た。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚部から12年生（高等部3年生）までの全課程を提供する魅力的な学校作りのため、DP,およびMYPの導入を成功させる</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中等部指導体制の確立と高等部の人員体制準備を進めること</li> <li>・ 初等・中等部のカリキュラム内容・評価の充実</li> </ul>	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ MYP および DP (中等部・高等部) 要員として新たに数学・社会・言語 (英語)・DP コーディネーターなどを採用出来た。</li> <li>・ 中等部・高等部専従の事務スタッフを採用。また教員増に対応し、中・高専用の教職員室を確保できた。</li> <li>・ 中等部での提供科目を完全に IB・MYP の科目と一致させ正式認証に向けてのカリキュラムが策定出来た。</li> <li>・ 幼稚部、初等部、中等部各部の独立性を高めることで、各部でより適切な教授内容を持ち生徒管理もより適切なものになった。</li> <li>・ 小学 4 年生までアシスタント教員の配置を広げることが出来た。</li> <li>・ 中等部専従のアシスタントが配置出来た。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中等部 (+ 高等部) 指導体制の更なる充実</li> <li>・ 教員研修の更なる充実</li> <li>・ 幼・小・中 (・高) とよりスムーズに繋がる IB 一貫校としてのカリキュラムの策定</li> </ul>
生徒・学習支援	・ 生徒支援の充実	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ カウンセラー在籍日数を週 2 日と増やすことが出来た。</li> <li>・ スクールソーシャルワーカーとして特別支援教育の資格を有する専従の常勤教員、カウンセラー、学校管理職との生徒支援上の連携が機能している。</li> </ul>	・ 更なる支援体制の充実
	・ 家庭学習支援	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ポートフォリオ作成ソフトの SeeSaw (幼・小)、ManageBac (中)、School Information System (校務システム) の Alma を活用し、教員・オフィス・保護者とのコミュニケーションの充実と効率化を勧められた。</li> </ul>	・ より簡便かつ有効なシステムを常に探していること
学校生活 ・ 生活指導	・ 生徒の健康、健全生活増進	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日・米両国において看護師経験を持つバイリンガルのスクールナースを採用出来た。</li> <li>・ インターナショナルスクールの顧客が多く、より多国籍に対応できる給食業者に変更出来た。</li> </ul>	・ 地域医療機関との連携拡大

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Behavior Policy</li> </ul>	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Behavior Policy に従って生徒指導のフローや保護者対応が機能し、問題ケースが減少している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 家庭、児相などとの連携</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生徒会活動</li> </ul>	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生徒の立候補による生徒会が機能し、毎週の生徒集会での発言、クリスマス・グラム、YMCAチャリティーラン・YMCAクリスマス募金活動などで活躍し、募金先も話し合いで自ら探すことが出来た。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生徒会の自律的継続と学校の適切な支援。</li> </ul>
保護者との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保護者の教育活動参加</li> </ul>	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 主に学校行事での保護者ボランティアの協力と活躍などより負担感のない形での保護者の学校活動への貢献が出来ている。</li> <li>・ 社会見学での引率補助、寄付金集め、学校行事改善提案などで良い連携ができています。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 更なる情報提供と呼びかけにより、より多くの保護者に学校活動に参加していただくこと。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保護者への情報提供</li> </ul>	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 幼・小、中・高それぞれに別れ、全学保護者を対象とした年3回の「教育内容・学校展望説明会」が実施出来、PYP、MYP、DPのIB理解を含めた教育内容・学校展望を保護者と共有出来た。</li> <li>・ 学校ウェブサイト+Facebookへの情報（各クラス+全校）提供。</li> <li>・ 生徒個別オンラインポートフォリオとして、SeeSawやManageBac、校務ソフトAlmaなどのITツールを活用。</li> </ul>	ITツールの更なる活用
地域連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域コミュニティーや公立学校との連携を深める</li> </ul>	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域の小学校に外国人英語教員を派遣。</li> <li>・ 地域コミュニティーへの施設開放。</li> <li>・ サタデースクール、インテンシブなどの英語プログラムの提供。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域連合会など他機関との交流を進める。</li> <li>・ 学校開放行事を増やすこと。</li> </ul>
教育環境・施設	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 設備・備品改善</li> </ul>	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中等部ホームルームに全面ホワイトボード、IB授業用の家具を備えた学習環境設置。</li> <li>・ 体育用具の大幅更新、サッカーゴール、バスケットゴール</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 大阪市、全YMCAと連携し、安全でより教育活動をサポートできる施設・設備・備品の確保に</li> </ul>

		<p>ルなどの校庭設備を更新。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講堂ステージ用音響設備を一新し、より高度な音楽・ステージ活動に対応出来るようにした。</li> <li>・校庭に幼稚部専用域を区分し、マッドキッチンやタイヤ飛びなど年齢に適した遊びが出来るエリアを設置出来た。</li> <li>・校内用務、清掃、設備管理のための専従要員をメンテナンス会社から確保できた。</li> <li>・利用希望者増に対応し、スクールバスを新規リースし、後期より2台体制で運用することが決定した。</li> </ul>	<p>努める。</p>
	<p>・IT機器・アプリケーションの充実・活用</p>	<p>3</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒・保護者データベース、学籍管理、出席管理、成績表、保護者コミュニケーション、また入学希望者対応に活用できる校務ソフト Alma の活用推進。</li> <li>・簡易パソコン Cromebook、iPad を更に購入し、5年生以上で1人1台、他学年も IT 室以外に通常教室で複数のラップトップ設置が進む。</li> </ul>	<p>・特に高学年において IT リテラシー増進を図りスマホなど濫用することがないように指導する。</p>
<p>広報活動</p>	<p>・広報発信方法の改善</p>	<p>3</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・海外ベースの広告支援会社と契約し、広報面から改善点の洗い出しを客観的にし、ウェブ・SNS・パンフ制作を含めた総合的コンサルティングを受けることが出来、成果が上がっている。</li> <li>・SNS での適宜情報発信が出来ている。</li> </ul>	<p>・学校サイト、Facebook、Instagram の更新頻度を上げる。</p>
	<p>・学外活動でのアピール</p>	<p>3</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・インド領事館や台北駐大阪経済文化弁事所、大阪外国企業誘致センター (OBIC) などの訪問、名刺交換会への参加など活発に出来、成果が上がった。</li> <li>・人通りの多い梅田スカイビル広場での YMCA 寄付金活動ができた。</li> </ul>	<p>・学外・海外での広報活動、YMCA の他部門との連携の機会を更に増やすこと。</p>
	<p>・国際機関・国際学校連盟な</p>	<p>3</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ACCJ (アメリカ商工会議所) やインド領事館、オース</li> </ul>	<p>・連携機関を更に増やしていく</p>

	<p>どでの広報</p>	<p>トラリア領事館の主催イベント参加。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ EARCOS や WASC、IB、JCIS、JASO との連携や会議・研修参加を通じた広報ができた。</li> <li>・ 国内外のYMCAネットワークに連動した広報やアジア各国のYMCAと交流が持てた。</li> <li>・ 全世界配布の「帰国便利帳」で帰国生の広報掲載。</li> <li>・ ファンドレイズ活動を通じた広報活動。</li> </ul>	<p>こと。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ファンドレイズ活動を更に活発にし、学校の認知の浸透に役立てる。</li> </ul>
--	--------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------